中央区会　毎年お手伝い10年余

障害者のハートでアート展

県立美術館で開かれたハートでアート美術展

ボランティア最前線

障害者の美術展第14回「ハートでアートこうべ 2015」は9月10日(木)から13日(火)まで、中央区の県立美術館で開かれ、グループわ の中央区会の有志ボランティア12人が会場設営、作品搬入、受付、会場案内などのお手伝いをしました。ボランティアは中央区会など7団体、個人参加もありです。1日に30～40人が活動。同区会の参加は十数年になるとか。

「やったー！。ついに入選や」。長年、応募し続けた方でしょう、満面の笑顔。自分の作品が飾ってあるだけで喜ぶ人もいます。中にはびっくりするほど上手な傑作もあり、脱帽。障害者の喜ぶ顔が見たい一心、年を重ねても、このボランティアだけは続ける人もあるとか。

スイーツデゴ体験の森田さん(右から2人目)

ハートでアート展は同展実行員会が主催(事務局は中央区社会福祉協議会内)。2002年に第1回を開催、158点の作品が集まりました。年々応募者が増え、今年は632点を展示。応募すれば、どなたの作品でも無料で必ず展示されます。同展は、障害者の芸術活動を助け、居場所づくり、生きがいづくりに資するものです。絵画、書、写真、陶芸、織物、その他(立体造形、彫塑)6部門に別れ、テーマは自由です。作品審査があり、優秀作10点、入選作50点を選びます。個人や作業所ごとに応募。「プロ級の作家もいて、国内だけでなく世界に名を知られた作家も育っているそうです。広い部屋を6，7か所のコーナーに分け、すべての作品を展示。高い場所に飾る作品もあります。「名前を間違えたらいかん」「壊したらいかん」と丁寧に扱うため時間が掛ります。

美術展と同時に、手芸品、パン、クッキーなどの即売コーナーも設けられ、結構な人気。子どもたちによるコンテストもあり「ぼくは、わたしは、これが好き」で投票、審査員の入選作とは別の作品が選ばれることもあるそうです。

取材にお伺いした初日の9月10日は、五味正昭さん(福7)が案内・会場巡回、森田邦子(生13)さんと、手島道子(生9)さんが体験コーナー、元田弘忠(生9)さんが介助・付添、水町亮治(生18)さんがふれあい工房のクッキーなどの販売を担当しました。五味さんは「10日は、出展した作業所のグループの人が目立った。素晴らしい作品ばかりで、私たちも大いに楽しませてもらっている」と話していました。作品を寄せた神戸市内の小学生もふくめ、9校が見学に訪れたといいます。

(取材・写真　　広報　永野　知己)